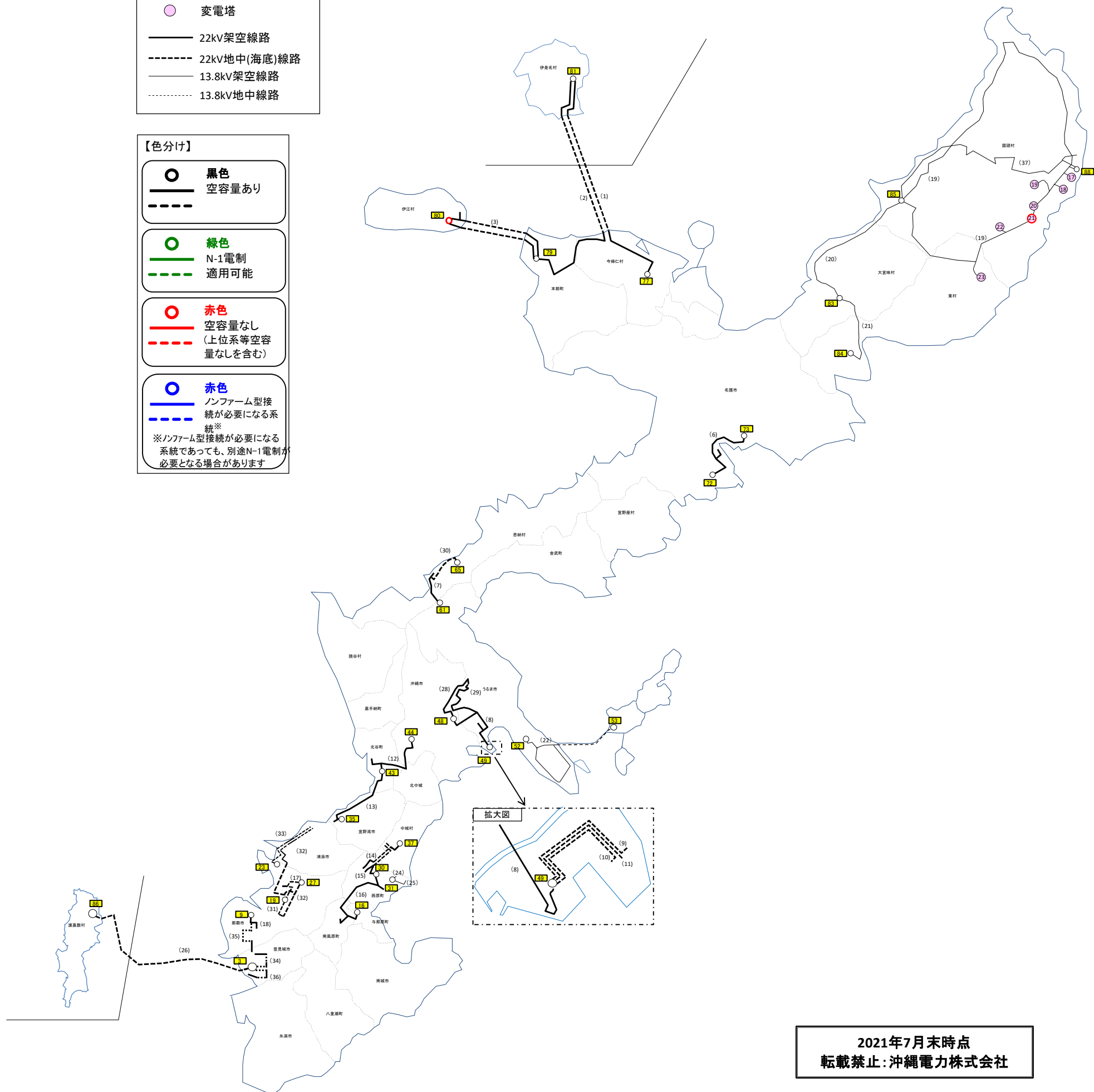


沖縄電力管内(本島)における空容量マッピング(22kV線路、13.8kV線路、配電塔、変電塔)

留意事項ならびに各設備の空容量および運用容量等については、別表をご参照ください。

- 【凡例】
- 変電所
 - ⊗ 開閉所
 - 数字 電気所略号
 - (数字) 線路略号
 - 変電塔
 - 22kV架空線路
 - - - - 22kV地中(海底)線路
 - 13.8kV架空線路
 - - - - 13.8kV地中線路

- 【色分け】
- 黒色
空容量あり
 - 緑色
N-1電制
適用可能
 - 赤色
空容量なし
(上位系等空容量なしを含む)
 - 赤色
ノンファーム型接続が必要になる系統※
※ノンファーム型接続が必要になる系統であっても、別途N-1電制が必要となる場合があります



2021年7月末時点
転載禁止: 沖縄電力株式会社

【別表】沖縄電力管内(本島)における空容量および運用容量等一覧表 (22kV線路、13.8kV線路、配電塔、変電塔)

2021年7月末時点
転載禁止: 沖縄電力株式会社

【留意事項】

- (1) 運用量容量値は、電圧や系統安定度などの制約により、変わる場合があります。備考欄をご参照願います。
 - ※1 1回線送電線(1バンク運用)のため1回線(1バンク)設備容量を記載
 - ※2 3回線送電線のため1回線故障時を考慮し2回線分の容量を記載
 - ※3 4回線送電線のため1回線故障時を考慮し3回線分の容量を記載
 - ※4 1回線(1バンク)故障時の電源抑制や系統切替を前提に時間を限定して使用できる設計上の熱容量を考慮
 - ※5 ループ系統構成(電源線を含む)を考慮
- (2) 空容量は目安であり、系統接続の前には、接続検討のお申込みによる詳細検討が必要となります。その結果、空容量が変更となる場合があります。
- (3) 原則として熱容量に基づく空容量を記載しております。その他の要因(電圧や系統安定度など)で連系制約が発生する場合があります。
- (4) N-1電制適用可否欄には、熱容量制約の解消を目的とした当該設備へのN-1電制の適用可否の目安を記載しております。系統接続の前には、接続検討のお申込みによる詳細検討が必要となります。その結果、適用可否が変更となる場合があります。適用不可の場合の理由は以下のとおりです。
 - #1 基幹系ループ系統のため
 - #2 1回線送電線のため
 - #3 1バンク変電所(分割運用等含む)のため
 - #4 配電用変電所のため(高圧電源の系統連系の場合、N-1電制は対象外となります。)
 - #5 安定度制約のため(制約が確認できているもの)
 - #6 2回線送電線の分割運用等のため
- (5) N-1電制適用可能量欄には、熱容量制約の解消のため当該設備にN-1電制を適用した場合の適用可能量(上位系考慮なし)の目安を記載しております。系統接続の前には、接続検討のお申込みによる詳細検討が必要となります。その結果、適用可能量が変更となる場合があります。なお、高圧系統に接続される電源の場合、N-1電制は対象外となります。
- (6) 発電設備等が連系する変圧器によっては、別途バンク逆潮流対策が必要になる可能性があります。
- (7) 3年以内に増強した系統へ連系する場合は、空容量の範囲内であっても、増強工事費の一部を負担いただくことがあります。
- (8) 社会的に影響を与えることが懸念される重要施設への供給系統に関する情報や、電力供給契約が特定できるような第三者情報などについては、公開しておりません。
- (9) 個々の電源の運転状況や需要者の電力使用状況が推測可能な電源線や専用線等であり、設備容量、運用容量、N-1電制可否、N-1電制可能量を非公開とする設備は、備考欄に「◇」を記載しております。
- (10) N-1電制適用可能量については、電力広域的運営推進機関「流通設備の整備計画の策定(送配電等業務指針第55条)におけるN-1電制の先行適用の考え方について」に基づき、電制上限量(10MW)を考慮した値を記載しております。
- (11) マッピングでは、複数線路を集約して表記しております。複数線路の場合、1線路へ分岐接続した場合の空容量を記載しております。
- (12) 13.8kV系統については、標準電圧(22kV、6.6kV等)へ整理・以降する方針であるため、連系を希望される場合は事前にご相談ください。

【別表】沖縄電力管内(本島)における空容量および運用容量等一覧表 (22kV線路、13.8kV線路、配電塔、変電塔)

2021年7月末時点
 転載禁止: 沖縄電力株式会社

送電線 No	送電線名	電圧 (kV)	回線数	設備容量 (100%×回線数) (MW)	運用容量値 (MW)	運用容量 制約要因	空容量(MW)		N-1電制適用 可否	N-1電制 適用可能量 (MW)	備考
							当該設備	上位系等考慮			
(1)	伊是名線2号	22	1	12	12	熱容量	12	12	不可 #2	-	※1
(2)	伊是名線1号	22	1	12	12	熱容量	12	12	不可 #2	-	※1
(3)	伊江線1号/2号	22	2	24	12	熱容量	2	2	可	6	
(6)	汀間線	22	1	14	14	熱容量	8	8	不可 #2	-	※1
(7)	特仲石線	22	1	14	14	熱容量	14	14	不可 #2	-	※1
(8)	特洲前線	22	1	13	13	熱容量	13	13	不可 #2	-	※1
(9)	特区線	22	1	14	14	熱容量	14	14	不可 #2	-	※1
(10)	特自貿線	22	1	14	14	熱容量	14	14	不可 #2	-	※1
(11)	特ふ頭線	22	1	14	14	熱容量	14	14	不可 #2	-	※1
(12)	特島袋線	22	1	14	14	熱容量	14	14	不可 #2	-	※1
(13)	特美浜線	22	1	14	14	熱容量	14	14	不可 #2	-	※1
(14)	A送電線	22	1	10	10	熱容量	10	10	不可 #2	-	※1
(15)	B送電線	22	1	10	10	熱容量	10	10	不可 #2	-	※1
(16)	特西原線	22	1	14	14	熱容量	14	14	不可 #2	-	※1
(17)	C送電線	22	1	-	-	熱容量	14	14	-	-	◇
(18)	那覇西線	22	1	14	14	熱容量	14	14	不可 #2	-	※1
(19)	新川線・阿波線	13.8	1	8	8	熱容量	8	8	不可 #2	-	※1
(20)	田嘉里線	13.8	1	8	8	熱容量	8	8	不可 #2	-	※1
(21)	慶佐次大保線	13.8	1	9	9	熱容量	9	9	不可 #2	-	※1
(22)	平安座線1号/2号	13.8	2	12	6	熱容量	3	3	可	3	
(24)	D送電線	13.8	1	-	-	熱容量	8	8	-	-	◇
(25)	E送電線	13.8	1	-	-	熱容量	8	8	-	-	◇
(26)	特ケラ線	22	1	14	14	熱容量	14	14	不可 #2	-	※1
(28)	特登川線	22	1	14	14	熱容量	14	14	不可 #2	-	※1
(29)	特美里線	22	1	14	14	熱容量	14	14	不可 #2	-	※1
(30)	特富着線	22	1	14	14	熱容量	14	14	不可 #2	-	※1
(31)	特旭橋線	22	1	12	12	熱容量	12	12	不可 #2	-	※1
(32)	特臨港線	22	1	12	12	熱容量	12	12	不可 #2	-	※1
(33)	特西洲線	22	1	14	14	熱容量	14	14	不可 #2	-	※1
(34)	特与根線	22	1	10	10	熱容量	10	10	不可 #2	-	※1
(35)	特瀬長線	22	1	10	10	熱容量	10	10	不可 #2	-	※1

